

桑村小学校応援団会議！

桑村小学校 令和6年6月3日 No,2 文責 関口

持続可能なコミュニティスクールへ

＜桑村小学校の児童数の推移＞

令和元年 95人

令和6年 71人

ここ5年で4分の3に減少（20人以上）

これまで桑村小は、地域や保護者の方々の大きな支えによって教育活動が活発に進められてきました。昨年も盛大に150周年を祝うことができました。しかし、ここから50年先、200周年を迎える時は、いったいどんな学校になっているのでしょうか？

児童数が減少しているということは、地域の少子高齢化が大きく進んでいることでもあります。つまり、これは学校だけの課題ではありません。これまで通り、100人以上児童が在籍していたころと同様の活動を行っていくことは、いくら地域や保護者の支えがあるといっても、かなり厳しいといえます。

全国的な状況を見ても、コロナ禍が過ぎ様々な制限が緩和されたとはいえ、多くの学校はもとに戻すと言うより、これを機によりよいものに精選していくという流れがあります。この桑村小学校においても、これから50年、いや10年先を見据え、様々な活動を持続可能なものにしていくためにどうしたらいいのかを、真剣に検討する時期にあると思います。これは151年目を迎えた本校の大きな課題ではないかと考えています。

P T A活動は、保護者の大きな負担が課題であったことから、組織を大きく改変し、スリム化を図りました。そして必要なことについては、アプリを活用し、ボランティアを募って実施していく方式にしました。今後、この方式がうまく軌道に乗っていくかどうかは、保護者や地域の方々の理解がどれだけ進むかにかかっています。

コミュニティスクールに関しては、本校は「学校応援団会議」を中心に強力な体制ができています。地域では子供会もなくなってきている現状もあるので、P T Aと学校応援団会議が協力し、学校を含む三者でしっかりスクラムを組んでいくことが、魅力ある学校づくりに欠かせないことです。

先日、2年生と一緒に仏の里美術館と長源寺に行きました。この地域の方々は長年にわたって仏像を大切に守ってきたからこそ、今、このように貴重な仏像が受け継がれているということがとてもよくわかりました。何世代にもわたって受け継ぐことはそう簡単なことではありません。大きな危機を何度も乗り越えてきたはずですが、そこには地域の方々の強い願いと誇りがあったのではないかと思います。

学校はこれから大きな転換点を迎えようとしています。それは地域についても同様です。

そんな時だからこそ、この地域の先人たちの努力に多くを学びながら、この学校や地域を守っていかなくてはならないのではないのでしょうか。



12年生の防犯訓練



原生林体験



春の奉仕作業



マルベリーによる読み聞かせ